

## 証言 DVD「語り継ぐ大阪大空襲」

新聞うずみ火が制作した写真の DVD「語り継ぐ大阪大空襲」を視聴した。戦争体験者の記憶を記録として残すために、クラウドファンディングで制作費を集めて、体験者のインタビューを収録して完成にこぎつけた。

証言 DVD では、空襲のときに 12 歳以下だった 3 人の女性が、当時の生々しい状況とその後を語り、約 30 分に編集している。「小学校高学年でも集中力が途切れることなく視聴できる時間内に収め、45 分の授業内に感想文を書いたり、意見を出し合ったりできるようにした」という。私も DVD を視聴して、あっという間に時間が過ぎていった。戦争体験者の生々しい発言だけでなく、多くの写真などでビジュアルに編集され、戦争の悲惨さをあらためて感じる事ができた。

写真下は死者 1 万 2620 人など大阪空襲による被害、藤原まり子さんにインタビューする制作者の矢野宏さん。大阪市東住吉区の藤原まり子さん(76)は 1945 年 3 月 13 日に生まれた。その 2 時間後に空襲に見舞われ、左足が大やけどにより変形してしまう。幼いころにひどい言葉を投げつけられ、心を痛めたこともある。中学 2 年のときに思い切って左足を切断し、義足をつけて生活することになった。戦争の苦しみは 1 日も忘れたことはないとする。

大阪府田尻町の吉田栄子さん(87)は疎開中に、大阪市浪速区の自宅と工場が空襲で焼けて、両親と姉や弟ら家族 9 人が犠牲になった。10 歳で孤児になり、親戚宅を転々として苦しい生活を送る。生まれ育った浪速区の自宅周辺を案内しながら、大阪大空襲の悲劇を振り返った。

滋賀県野洲市に住む在日朝鮮人 2 世の鄭末鮮(チョン・マルソン)さん(88)は、大阪市東淀川区で空襲に見舞われ、母と兄、妹、弟が亡くなった。鄭さんは朝鮮人であることを隠して暮らしてきたが、70 歳の時に中学校の教師から読み書きを習い、空襲体験を語るようになったという。

この証言 DVD を制作した新聞うずみ火の矢野さんは、6 月 3 日にレポートしたように、大阪空襲訴訟を支える会代表を務め、『空襲被害はなぜ国の責任なのか』『大阪空襲訴訟を知っていますか』というブックレットを 2009 年に刊行している。空襲体験者の話を直接聞く平和学習がコロナ禍により中止されてきたので、証言 DVD 制作に奔走してきた。戦争体験者の記憶を記録し、次の世代に伝える作業を続ける矢野さんらジャーナリストにエールを送りたい。多くの人に DVD を視聴してもらいたい。

(2021 年 11 月 1 日)

